

# 今は未来のためにある

一人一人が主人公 ～規律を守り、全力で挑戦し、高め合える仲間たち～

No.14 令和7年7月1日 発行者;校長 小倉 大二

## 【学校教育目標】

校訓「誠実・勤勉・礼儀」に則り、  
思いやりの心を持ち、  
新たな価値創造に挑戦する中で、  
母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

## “届けよう、服のチカラ”プロジェクト

6月26日(木)の6校時に、ファーストリテイリング(GU)の方に来校していただき、生徒たちに「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」についての説明をしていただきました。「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」とは、戦争などで難民となった世界の子どもたちに服を届けようというユネスコ(国際連合教育科学文化機関; United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization ⇔ U.N.E.S.C.O.)が、全国の小・中・高等学校に投げかけている取組です。

現在、世界のあらゆる場所に戦争や人権侵害等で、生まれた国や地域を離れ、生活している難民と呼ばれる人たちがいます。現在、わかっている範囲ですが、難民の数は12年連続で増加し、2024年5月時点で過去最多の1億2,000万人に達したことが発表されました。この数は日本の人口に相当します。そのうちの約4割に当たる推定4,700万人は子どもで、希望の見えない未来に直面しています。そのような子どもたちに「服のチカラで希望を育めないか」という願いから生まれたのが、この取組です。



### 説明後の生徒の感想から

- 服のチカラプロジェクトをすると聞いて、私も難民の子どもの役に立ちたいと思いました。
- ペットボトルキャップの回収でもワクチンに変えられるすごさを知っているので、私も服を届けたいです。自分の着ている服にありがたみを感じたり、それを大切に使用したりするなど、今の自分にできることをしていきたいです。
- 今日来てくださったGUの人たちは、大変な思いをしている人たちを残さず見つけ、幸せな気持ちになってもらえるように行動までしていて、格好いいなと思いました。自分もやってみることで難民の子どもたちに思いを届けて、笑顔にしたいなと思いました。
- これからは、いらぬ服を捨てるのではなく、必要な人たちに届けたいと思うので、この活動に取り組んでいきたいです。

2学期以降、生徒たちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収する活動を行います。そして、回収した服は、難民等の服を必要とする人々に届けられます。(裏面参照)

この取組を通して、松ヶ江中学校の生徒たちに、社会貢献にかかわるボランティア精神をはじめ、高い人権意識、反戦意識が培われることを願っています。

## 「子ども服」の寄贈について（2学期～）

2学期から「子ども服」の回収を始めます。もし、ご家庭で不要になった「子ども服」があれば、学校までご寄贈ください。

### 【提出方法】

2学期以降、授業がある日に、担任または職員室にご提出ください。

可能であれば、次の3つの分類での提出をお願いします。

- ① 赤ちゃん用（サイズ 60cm～100cm）
- ② キッズ長袖・長ズボン（サイズ 110cm～160cm）
- ③ キッズ半袖・半ズボン（サイズ 110cm～160cm）

### 【注意事項】

- 現地で不足しているのは子ども服ですので、子ども服のみの寄贈をお願いします。  
（60センチから160センチまでの服です。大人の服は業者に回収されません。）
- 難民の方々が辛かった経験を思い出させてしまう可能性があるため、戦争を思わせる模様（迷彩、武器、ドクロ等）はさけてください。
- 洗濯した状態で寄贈をお願いします。
- 衛生面の観点から直接肌に触れる下着、靴下、帽子、靴は回収していません。

## ペットボトルキャップも集めています

2年前から松ヶ江中学校では、ペットボトルキャップを集め、それを寄付しワクチンに替えるという「エコ キャップ ウィング活動」の取組も行っています。この取組は、飲み終わったペットボトルのキャップを回収し、再利用する際に生まれる利益を、ワクチンに変え、途上国の子ども支援に役立てる取組です。ぜひ、ご家庭にあるペットボトルキャップをご寄付いただければと思います。

地域の方も、このプリントをご覧になったら、ぜひ、ご協力ください

連絡先 松ヶ江中学校 093-481-0605